

UrbanSafari

[アーバンサファリ]

日之出出版

Sep.2022 Vol.29

Cover Story

サム・ライリー

New Essentials for
Business man.

上質で“今どき感”があるもの。



GIORGIO ARMANI

Scott Eastwood





TIME INSTRUMENTS
FOR URBAN EXPLORERS

Bell & Ross

Contents

- 06 COVER STORY サム・ライリー
- 08 in Your CLOSET
- 12 今どきジャケットはちょっとカジュアルなパッチポケット付き。
- 32 時計界では若手の〈ベル&ロス〉が存在感を放つ理由。
- 33 HOTEL WITH WILD GAME MEAT
- 34 ART INTO LIFE
- 37 ELEVATE YOURSELF
- 38 自然あふれる軽井沢に佇む、離れを持ったハイクラス別荘。
- 39 Gastronomic City TOKYO

Renzo Rosso

レンゾ・ロッソ／OTBグループ創業者兼プレジデント

写真＝正重智生 photo: Tomoo Syoju (BOIL)

多くのブランドを押し上げる、発展哲学とは？

〈ディーゼル〉〈ジル サンダー〉〈メゾンマルジェラ〉〈マルニ〉〈ヴィクター&ロルフ〉など、多くのブランドを傘下に収める国際的なファッショングループがOTB。2021年の業績では総収益15億3000万ユーロ。いち早くパンデミック前の水準を上回り、構造改革と挑戦を続けている。多くのブランドを業績アップさせる力はどこにあるのか。グループのトップ、レンゾ・ロッソ氏に聞いてみた。

「私たちはそれぞれのブランドが自由に創造力を発揮してほしいと考えています。互いに影響を受けるのではなく、必要なのは独立した存在で勇気があること。つまり、ほかとは違うということです」

それを実現するためにOTBでは人事や税、不動産、ロジスティクスなど、それぞれにベストなマネージャーを配置。トップダウンから、横でブランドをコンサ

ルティングするスタイルに変えたという。「〈ディーゼル〉設立当初は、私がすべてに関わっていました。でも、自分で行うことには限りがあります。そう思って以降、グローバルに考え方の違う人材を起用しました。当然彼らからのインプットもあり、その結果、真のグローバル化を果たしたことは私の誇りです」

さらに今後成長を続けるために不可欠なのは、デジタルへの取り組みだという。「すでにOTBでは〈ディーゼル〉をはじめメタバースを活用し、NFTを発行しています。なぜならメタバースも人生の一部だと考えているからです。そしてなにより、こうした新しい態度をとることが企業として必要だと考えています」

今後は各ブランドの発展とともに、アジア、北米の拡大を目指すという。一番の喜びはビジネスの成功だと語ってくれた。

発行人&編集長
Publisher & Editor in Chief
藤原 晃
Akira Fujiwara
メディア事業部 部長
Director of Media Division
成井 毅
Tsuyoshi Narui

アートディレクター
Art Director
藤澤拓也
Takuya Fujisawa (ANAGUMA)
デザイナー
Designer
渋谷裕子
Yuko Shibue (ANAGUMA)

コントリビューティング・エディター&ライター
Contributing Editors & Writers

遠藤 匠
Takumi Endo
大嶋慧子
Keiko Oshima
古関千恵子
Chieko Koseki
柴田 充
Mitsuru Shibata
中村孝則
Takanori Nakamura
渡邊ひかる
Hikaru Watanabe

●本誌掲載商品の価格表示はすべて税込み価格です。
●本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。
●本誌の編集内容に関するお問い合わせは編集部直通☎03-5543-1230までお願いいたします。
なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

発行
株式会社日之出出版
〒104-8505 東京都中央区八丁堀4-6-5
編集☎03-5543-1230
広告☎03-5543-1131

〈オーティービー〉

OTBは“オンリー・ザ・ブレイブ／勇敢なる者だけに”の略。レンゾ・ロッソ氏の“勇敢で創造力に富んだ妥協しない精神と理想”を体現する。2021年にはメタバース向け製品およびコンテンツの開発に向けて“BVX(ブレイブ・バーチャル・エクスペリエンス)”を設立。オーラ・ブロックチェーン・コンソーシアムの一翼も担っている。

PROFILE

1980年、イギリス生まれ。映画デビュー作『コント・ロール』で伝説のロックバンド、ジョイ・ディヴィジョンのボーカルだった故イアン・カーティスを演じ、高い評価を獲得。『ロシアン・ルーレット』『オン・ザ・ロード』『ビザンチウム』などを経て、ディズニー映画『マレフィセント』に出演する。その他の出演作に、『高慢と偏見とゾンビ』『フリー・ファイヤー』『ウェイ・ダウン』など。異色の歴史ファンタジー『SS-GB ナチスが戦争に勝利した世界』など、TVドラマでも活躍している。

SAM RILEY

【サム・ライリー】

写真=Fabrizio Maltese / Contour by Getty Images(表紙)、Getty Images 文=渡邊ひかる
photo by Fabrizio Maltese / Contour by Getty Images(COER), Getty Images
text: Hikaru Watanabe

出

演作の本数がとりたてて多いタイプではないが、作品の中で放つ存在感は大きい。出演作選びで大切にしているのは、「心に訴えかけてくるものがあるかどうか、自分の倫理観に合ったものかどうか」だそう。伝説のミュージシャンを演じ、業界の注目を一躍集めることになった映画デビュー作『コントロール』（2007年）から、哀しき悪役に仕える“カラス”を演じたディズニー大作『マレフィセント』（2014年）まで。過去の出演作からは、どこかサム・ライリーらしさを感じさせるものがひとつひとつきちんと並んでいる印象を受ける。

日本公開を控える映画『キュリー夫人 天才科学者の愛と情熱』もそうで、この中で彼が演じているのは“キュリー夫人の夫”。19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍した偉人であり、2度のノーベル賞に輝く科学者マリ・キュリーの夫として物語の鍵を握っている。そもそも、女性の活躍が困難だった時代に対する皮肉が“キュリー夫人”の通称に今も漂っているわけだが、夫であるピエール・キュリーも歴史上で語られるべき人物だったのは事実。マリとピエールは二人三脚で研究に励み、未知の元素を発見し、人類の未来を変えた。『キュリー夫人 天才科学者の愛と情熱』はそんな夫妻の秘話に迫るもので、ロザムンド・パイク演じるマリを中心に物語が展開。夫のピエールは、マリの公私にわたるよきパートナーとして描かれる。「キュリー夫妻について、実はあまり知らなかった。どれだけマリ・キュリーが卓越していたのか、どれだけ夫婦として素晴らしかったのかに気づいていなかったんだ」というライリーは、脚本に描かれた2人の夫婦関係に惹かれたそう。

「彼らの関係の描かれ方がとても好きだった。当時としては珍しい無宗教の家庭で育ったピエールはマリと恋に落ちたとき、兄のジャックとともに様々な物質の電位を測定するための水晶電位計を開発していた。驚くべきは、マリとピエールがお互いを完璧に捕い合ったことだろうね。一方に欠けたものがあっても、もう一方が備えていた。愛し合うことにおいてだけでなく、研究においてもそう。彼らは志と運命をともにした完璧なカップルだったんだ。2人はお互いが研究に対して同じ衝動を感じ、同じ志を持ち、同じ謙虚さを備えていることを知ることができた。2人とも、科学だけを信じて

いたんだ」

こう語るとおり、劇中のマリとピエールはときにぶつかり合いながらも常に深く愛し合っている。ゆえに、2人の発見が癌治療などに貢献していく一方、戦争の道具に使われて事態が複雑さを増す展開においても、史実に沿った事態が夫婦を襲い、マリの人生が混乱する展開においても彼の存在は変わらず大きい。ちなみに、ライリー自身は冒頭に挙げた映画デビュー作『コントロール』の共演者だったアレクサンドラ・マリア・ララと撮影中から惹かれ合い、映画完成から約2年後に結婚。マリとピエールになぞらえるわけではないが、同業者同士として運命の相手と早々に出会い、「志と運命をともにした完璧なカップル」になっている。それは今も変わらないようで、ライリーが『マレフィセント2』のプロモーションで日本にやって来た2019年、話を聞いた際にも妻との出合いを嬉しそうに振り返ったり、授かった息子の父である喜びを気さくに語ったりしていたのが印象的だった。そんな彼のこと、ピエールへの理解も深かったようで、「サムはピエールという役で大きな優しさを表現することができた。ピエールがマリの人生に重要であること、この作品が実はマリとピエールの物語であることを彼は理解していた」と製作陣も絶

賛。結果、サム・ライリーらしさを感じさせる1本へきちんと導いている。

もちろん、優秀な科学者と化すには、“感情”以外の“勉強”も必要だったようだが。

「ピエールを演じるため、化学や基礎物理を勉強したり、(パリにある)マリ・キュリー博物館の講座を受けたりもした。マリ役のロザムンドは素晴らしい俳優で、とても賢く、真剣に自宅学習に取り組んでいた。だから、スクリーンの中で僕の隣に並ぶ彼女は、間違いなく天才教授の雰囲気醸す。ということは、僕も宿題をやらないわけにはいかなかったんだ(笑)」

現在、42歳。出演頻度は相変わらずマイペースを貫いているようだが、撮影済みの映画2本が公開待機中。1本は10年ぶりに再会した元夫婦の関係を描くラブストーリー『シー・イズ・ラブ(原題)』（ヘイリー・ベネットと共演）。もう1本はジェード・ロウ演じる英国王ヘンリー8世を題材にしたサスペンス史劇『ファイアブランド(原題)』だという。今の時点でそれらからサム・ライリーらしさを見つけ出そうとするのはさすがに無粋だが、興味をそえられる作品なのは確か。もう少し多くの作品で顔を見たい気もするが、これこそがまさに“らしさ”なのかもしれない。



『キュリー夫人 天才科学者の愛と情熱』

ポーランド出身の女性研究者マリは大学で性差別を受け、研究の機会を奪われていた。そんな中、彼女は同僚の科学者ピエール(ライリー)と運命的な出合いを果たし、やがて結婚。彼の支援で研究を進める中で新しい放射性元素を発見し、夫婦でノーベル賞を受賞するまでに至るが……。監督は『ハッピーボイス・キラー』のマルジャン・サトラビ。●10月14日より、kino cinéma横浜みなとみらいほかにて全国順次ロードショー

©2019 STUDIOCANAL S.A.S AND AMAZON CONTENT SERVICES LLC

The story of Marie and Pierre is undoubtedly one of the most perfect unions of man and woman in both love and shared ambition and destiny.

マリとピエールの物語は、愛し合い、志と運命をともにした最も完璧なカップル(の物語)のひとつだ。

サム・ライリー

in Your

CLOSET*

いつまでも持ち続けたい反骨の精神とともに。

バイクは鉄馬とも呼ばれ、ライディングの躍動感に乗馬に通じる。〈エルメス〉の新作はそんなメゾンの慧眼が冴える。馬具の収納から生まれたバッグにW ライダースのテイストを加え、変わらぬ反骨の精神が宿る。

写真＝野口貴司 スタyling＝中川原 寛 ヘア&メイク＝松本 恵 文＝柴田 充 構成＝大嶋慧子

photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara (CaNN) hair&make-up : Megumi Matsumoto text : Mitsuru Shibata composition : Keiko Oshima

BAG

エルメスの
“オータクロア”

〈エルメス〉初のバッグは、20世紀初頭、乗馬用ブーツと鞍を運ぶために誕生した。そのスタイルはトラベルバッグに受け継がれ、バッグ“オータクロア”として今も親しまれる。今期ロックの世界観とともに、不変のファッションとしてあり続けるバイカーズジャケットから着想を得た新モデルが登場。大胆なジップポケットや独自のフラップポケットのほか、メゾンのシンボル“シェーン・ダンクル”チェーンも特別仕様で男心を虜にする。

バッグ参考価格454万3000円、スーツ参考色84万8100円、シャツ14万3000円、ネクタイ3万3000円、机の上に置いたスカーフ5万7200円(以上エルメス/エルメスジャパン)



Hermès / エルメス

in Your

CLOSET*

ローファーはちょっと厚底が今どきです。

ビジネスウエアのカジュアル化が進む今、足元もほどよくカジュアルなローファーの需要が高まった。なかでも、ちょっと厚底なら華奢に見えず、今どき感あり。ブランドを選べばエレガントさも担保される。

LOAFER

ダンヒルの
“ユニフォーム ラグ ローファー”

LOAFER

トッズの“T タイムレス”

LOAFER

トム ブラウンの
“ラバー コマンドソール
クラシック ペニーローファー”

LOAFER

ジョンロブの
“ロペス ニュースタダード”

D

アメリカントラッドを代表するペニーローファーをブランドの個性でモダンイズした。クラシックなスタイルを崩すことなく、ラバーのコマンドソールを組み合わせ、パーフォレーションを施したエプロントウで飾る。踵のシグネチャーストライプのグログランループタブもひと際映える。

ローファー 11万9900円(トム ブラウン/トム ブラウン 青山)

C

堅牢なブーツ作りで培った技術を注ぎ、タイムレスなローファーに現代的な解釈を加えた。熟練の手縫いならではの風合いが漂うヴァンプ(つま先革)と厚いソールとのコントラストも絶妙。サドルのサイドにはブランドの創業年であり、長い伝統を誇示する“AD 1893”をゴールドで箔押しする。

ローファー 12万3200円、パンツ10万4500円(以上ダンヒル)、その他はスタイリスト私物

B

定番ローファー“ロペス”に、ラウンドトウのラストを採用し、現代的なスタイルに仕上げた。さらに超軽量のライトウェイトウォーキングソールを組み合わせ、見た目のボリューム感に対し、軽快かつ快適な履き心地が味わえる。フォーマルにも違和感ない、名門ならではの厚底ローファーだ。

ローファー 23万1000円(ジョンロブ/ジョンロブ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

A

シンプルなフォルムに、ブランドアイコンであるゴールドメタルの“T タイムレス”のモチーフが強い存在感を与える。さらにボリューム感あるラグソールは、ミリタリーテイストを醸し出し、アクティブさを強調。都会的なファッションとも相性がよく、デニムやスラックスなどパンツを選ばない。

ローファー 10万6700円(トッズ/トッズ・ジャパン)

in Your

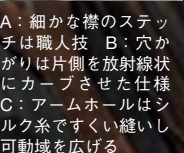
CLOSET*

日本の伝統が息づく良質なシャツを知っていますか？

ビジネスでネクタイを外す機会も多くなった。だからこそ吟味したいのがシャツだが、決して飾ることはない。上質な生地と仕立てに熟練の技が注がれていれば、リラックスしながらも自ずと見た目が違ってくる。








A: 細かな襟のステッチは職人技 B: 穴かがりは片側を放射線状にカーブさせた仕様 C: アームホールはシルク糸ですくい縫いし可動域を広げる

SHIRT

日本橋三越本店の
“チョーヤシャツ”

日本の洋服の黎明期、1886年に〈蝶矢〉は創業した。その名は、魂と生まれ変わりを意味する蝶と、知恵と革新を象徴する矢からなり、まさに蝶のように軽やかなシャツを目指して進歩を遂げてきた。このワイドカラーシャツは、タイドアップしたときの美しいVゾーンはもちろんのこと、ネクタイを外したときにもドレシーとリラックスを両立する。日本ならではの繊細な技術とこだわり抜かれた着心地を追求した良品。試す価値は十分にある。

シャツ各3万3000円(以上チョーヤ／日本橋三越本店)、ジャケット(スーツ価格)21万4500円(リッドテラー／日本橋三越本店)、帽子7万9200円(トーカーハット／日本橋三越本店)、その他はスタイリスト私物

in Your

CLOSET*

新感覚にあふれた大人のゴルフスタイル。

ゴルフ人気が例年以上に高まっている。それと歩調を合わせるように、ゴルフウェアも多彩になってきた。求められているのは、ゴルフウェア然としないスタイリッシュなアイテム。派手さよりもクールさを装いたい。

SUNGLASSES

ディータの
“ディータ ランシアー”

C A
D B

GOLF WEAR

ルシアン ペラフィネ LPFGの
“ゴルフウェア”

CADDY BAG

ゼロハリバートンの
“スタンド式キャディバッグ”

GOLF SHOES

フットジョイの
“ドライジョイズプレミア ターロウ
バイトッド・スナイダー”

D
人気アメカジブランド〈トッド・スナイダー〉とのコラボレーションから生まれたゴルフシューズは、ヴィンテージスタイルをコンテンポラリーに仕上げた。アッパーとトゥには伝統的なブローグを施し、2種類の素材で構成された踵のラグ(突起)と独自のアウトソールで、高いグリップ性を誇る。

ゴルフシューズ5万5000円、サンバイザー 4950円(以上フットジョイ/アクシネットジャパンインク)

C
チタン製ノーズパッドにすべり止めゴムを設け、プレイ中でも優れたかけ心地と調整のしやすさを両立する。レンズは特別な偏光性能により乱反射する光を抑え、グリーン芝目を見るにもいい。アビエーターを想起させるスタイリッシュなメタルフレームはゴルフ以外に、街でも映えるだろう。

サングラス4万9500円、(ディータ/ディータ青山本店)、キャップと服はAと同じ

B
機能性に長けたアルミニウムのトラベルケースで名高い〈ゼロハリバートン〉が今年からゴルフコレクションを展開。ラゲッジブランドとして培ってきた技術やノウハウを注ぎ、大切なクラブを衝撃から守るとともに開閉しやすいマグネット式ポケットなど、スマートな使い勝手も配慮されている。

キャディバッグ6万6000円、ボストンバッグ4万2900円(以上ゼロハリバートン/ゼロハリバートンカスタマーサービス)、服はA、サングラスはCと同じ

A
一説によれば、ゴルフは14世紀スコットランドの羊飼いの遊びが発祥。同地のカシミヤをブランドのルーツにする〈ルシアン ペラフィネ〉とも、精神や文化の親和性は高い。初のゴルフアイテムは、スポーツの機能性とレジャーの快適性、ファッションの遊び心をラグジュアリーに表現する。

ジップアップブルゾン6万4900円、パンツ4万8400円、キャップ1万9800円(以上ルシアン ペラフィネ エルビーエフジー/ルシアン ペラフィネ 東京ミッドタウン店)、サングラスはCと同じ、その他はスタイリスト私物

着心地はカーディガン級、 見た目は別格の品のよさ。

〈ジョルジオ アルマーニ〉のお家芸といえ、副資材を省いた一枚仕立て。この1着もその技を駆使し、カーディガンのような軽やかな着心地に。その優しい着心地とは裏腹に凛々しく見えるのは、ウエストを高めの位置で絞り、胸まわりに貫禄を持たせているから。タートルニットで少しカジュアルに着こなしても、品のよさが薫る。

ジャケットはこのブランドが誇る“メイド トウ オーダー”にも対応する人気のモデルと同じタイプ。ジャケット33万円、オーダーのニット16万8300円～、パンツ14万6300円、ベルト6万500円、シューズ15万4800円、グローブ6万8200円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

GIORGIO
ARMANI

コレなら気分も楽です。

今どきジャケットは ちょっとカジュアルな パッチポケット付き。

行動制限のない日を迎えて以降、約2年ぶりにジャケットやスーツを新調する人が増えているという。出社機会も多くなり、さすがに「見た目も気分も一新したい」といったところだろうか。そんな中で、今選ぶべきジャケットを挙げるなら、パッチポケット付きタイプで決まり。上品にしてほどよくカジュアル。この絶妙なバランスこそまさに今どきといっている。もちろん上質、快適は最優先で。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア＆メイク＝松本 恵 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaVN)
hair&make-up: Megumi Matsumoto text: Takumi Endo
composition: Keiko Oshima



MONCLER

BRUNELLO
CUCINELLI

A ヴァージンウールとアルパカの混紡で特別な着心地を。

アルパカの長くふんわりとした繊維を生かし、繊細なグラデーションを表現したヘリンボーン柄が見どころ。高級感を放つホーン製ボタンとパッチポケットのリラックス感がスポーツシックなスタイルで、ラベルを立てて着崩しても凛々しさは損なわれない。副資材を極力省き、軽量のキュブラ裏地を施した仕立てで着心地も抜群。

ジャケットの生地には少々の合成繊維を配合することで、生地に安定感を付与。サルトリアフォーマルジャケットの表情を持ちながらアウターとしても活躍してくれる。ジャケット58万3000円、ニット14万3000円、シャツ5万9400円、パンツ15万9500円、ネクタイ3万9600円、ポケットチーフ2万9700円、帽子6万6000円、バッグ20万9000円(以上ブルネロ クチネリ/ブルネロ クチネリ ジャパン)

B カシミアに加え、上質ダウンの快適さも一緒に楽しめる。

カシミアウールを贅沢に使った正統派の3Bジャケットと思いきや、〈モンクレール〉自慢の最高級ダウンをフィリングした薄手のダウンライナー付き。パッチポケットに加え、フロントボタンもスナップ式というスポーティな味つけ。肩まわりにほどよい構築感を持たせたボックスシルエットで、品よく着られる1着に仕上げた。

ポケットやボタンなどから漂うスポーティさは、スウェットシャツとも相性がいい。ジャケット48万7300円、パンツ10万7800円(以上モンクレール/モンクレール ジャパン)、スウェットシャツ参考価格10万2300円(2 モンクレール 1952 マン/モンクレール ジャパン)、サングラス4万9500円(モンクレール ルネット/モンクレール ルネット カスタマーサービス)

C 最高級素材とテクノロジーの嬉しいマリアーージュ。

ジャケットに採用したカシミアは、“トップ・チャイナ・カシミア・ヤーン”と呼ばれる世界最高品質のもの。さらに、そのとろけるような風合いを損ねることなく撥水加工を施すという、驚きのテクノロジーを採用した。雨やちょっとした水濡れなど気にせず着られるため、贅沢このうえない着心地を日々の生活や旅行で楽しめる。

旅行用にデザインされた1着ゆえ、4つの内ポケットに手まわり品を収納できる。襟裏にはゴートスキンスウェードが手縫いで施されており、襟を立てた際の上質感あるアクセントに。モデル名は、“ソフト・ボイジャー・ジャケット”。ジャケット56万5400円、ニット22万9900円、パンツ13万6400円(以上ロロ・ピアーナ/ロロ・ピアーナ ジャパン)、その他はスタイリスト私物



LORO PIANA



A ほっこり素材ならタイドアップでもリラックスできる。

温かみのある ブークレ調の生地は、肩の力が抜けた雰囲気印象づけるにはうってつけ。しかもこの1着は、ナイロン混紡で伸縮性を加えたウール仕立て。着たときの佇まいだけでなく、ほどよいリラックス感を享受できる。ジャケット自体はゴーラインが高くコンパクトなシルエット。3ピース風に着てもモダンな印象に。

チェストポケットもパッチを採用し、カジュアル度を高めた3パッチ仕様。ジャケット17万500円、シャツ4万1800円(以上カネーリ/コロネット)、ネクタイ2万7500円(ブリューワー/コロネット)、パンツ4万6200円(ドッピア アー/コロネット)、カーディガン3万6300円(ハンティング・ワールド/ハンティング・ワールド帝国ホテル店)、その他はスタイリスト私物

B 丸みを帯びたシルエットが仕立てのよさを物語る。

ダブルブレストッドを軽快に着こなしたいときも、パッチポケット付きが有効。伸縮性に富んだウールジャージを使った柔らかな一枚仕立てが特徴で、縫製箇所を裏地で隠すのではなく、パイピング処理で丁寧に隠すことで極限まで軽く仕立てている。肩パッドや芯材も極力省いたため、優しくフィットしながらも動きやすい。

目の詰まったスーパー 120'sウールの生地はしっかりとした張りが仕立て映えし、それでいてカラダを優しく包み込んでくれる。ラベル幅を広く設定せず、コンパクトなシルエットを描いているため、休日のカジュアルパンツにも合わせやすい。ジャケット17万6000円(ベルヴェスト/伊勢丹新宿店)、ニット2万6400円(スリドッツ/スリドッツ青山店)、その他はスタイリスト私物

C オフ白カシミヤの爽やかな品を味方につける。

アイボリーカラーのカシミヤ仕立てを選べば、清潔感や軽快さを印象づけることも可能。〈ゼニア〉が得意とするアンコン仕立てで、パッチポケット以外のディテールは過度な主張を抑えたエレガントな仕上がりになっている。それゆえに、カシミヤ自体の上質な風合いや配色がよく映え、着る人を端正に引き立ててくれる。

ニットとジャケットの配色を揃え、パンツも赤みを帯びたベージュでリラックスした色使いにした着こなし。クライアントとのミーティングもない、オフィスワークメインなら、こんなすっきりかつリラックスしたジャケットスタイルの日があってもいい。ジャケット66万5500円、ニット19万2500円、パンツ24万5300円(以上ゼニア/ゼニア カスタマーサービス)



BRIONI

**手間を惜しまない仕立てが
着た際の見映えを左右する。**

ジャケットで特筆すべきは、職人技を駆使した“ダブルスプリッタブル仕立て”。これは、2枚のカシミア生地を一枚布のように縫い合わせ、美しさとドレープ感を表現したもの。凛々しい肩まわりやウエストの絞りもきれいなラインを描き、絵になる着こなしに導いてくれる。パッチポケットの柄合わせからも、高い美意識が感じられる。

ジャケットの着丈は長すぎず、少しゆったりとしたシルエットのパンツと合わせた際もバランスよく見える。今シーズンの〈ブリオニ〉は、パンツと共地のシャツをレイヤードするという新鮮なスタイルを提案している。ジャケット56万9800円、シャツ10万3400円、ニット15万8400円、パンツ13万7500円(以上ブリオニ／ブリオニ クライアントサービス)

Audi

大幅にアップデートした、

新型〈アウディ〉A8の見どころとは？

約3年半ぶりに大幅にアップデートされた〈アウディ〉A8は、今年7月に発売されたばかり。卓越した快適性とスポーティなハンドリングが共存するこの1台は、すべてのドライバーのニーズを満たす幅広い運転体験をもたらしてくれる。では一体なにが進化したのか？ さっそくそのポイントを追ってみよう。

標準装備のマトリクスOLEDリヤライトは走行モードでその表情を変え、後続車が2m以内に近づくときすべてのOLEDセグメントが点灯。車間距離を警告する機能を備えている



A



B



C

A: ビデオプロジェクターと同じ原理で作動するデジタルマトリクスLEDヘッドライトを採用。ヘッドライトが光のカーペットとなり、走行中の車線を遠くまで明るく照らし出す B: 水平基調のシンプルで上品なデザインを採用したインテリア。幅広く開放的な印象をもたらしてくれる。表示類も機能的にレイアウトされ、モダンなテイストが漂う C: 多彩で快適なシートが用意された新型A8。シート地の正確な縫い目ピッチにもクラフトマンシップが見て取れる。シートは標準でバルコナレーザが採用され、オプションで他のタイプも用意される

※画像はすべてオプション装着車

Point 01 “ドライバースカー”としての躍動!

貫禄を増したボディと余裕のパワーが感動を呼ぶ。

「運転なさいますか？ それとも後ろに乗車されますか？」。〈アウディ〉A8クラスのフラッグシップセダンに試乗するとき、ディーラースタッフからこう聞かれることがある。これまでミドルクラスのセダンやSUVに乗っていた人なら、「え？ 後ろ？」と一瞬戸惑うかもしれない。だが、すぐに「なるほど」と思うはず。そう、〈アウディ〉A8はもともとドライバースカーとショーファーカーの資質を併せ持つクルマ。新型でますますその魅力が磨き上げられたとなれば、もちろんすぐに「その両方で」と答えたほうがいい。

とはいえ、まず気になるのが新型のデザイン。キーを預かったら、さっそくエクステリアをチェックしたい。まず着目すべきは刷新されたフロントマスクだ。ブランドアイコンであるシングルフレームグリルは、底辺を広げることでより存在感が増した感じに。さらにグリル同様、縦型に変わったサイドエアインテークなどもクロームインサートをあしらうことで大幅にプレステージ性がアップ。「う〜ん、貫禄が増したなあ」と感じるのは間違いではない。

サイドからリヤにかけてのフォルムも相変わらず美しい。セダンとはいえ、まるでスポーツカーのような流麗な佇まいは、走りのよさとエレガントさを体現したもの。3mあるホイールベースからはゆったりとした乗り心地が窺えるものの、彫刻的なフェンダーや20インチホイールのタイヤ、力強いリヤを見ると、美しく速い走りで魅せる〈アウディ〉に期待が高まるはず。そしてその期待は、最初の走り出しで感動に変わるのだから試乗は楽しい。

ちなみに新型A8には、3.0TFSIと4.0TFSIという2つのパワートレイン設定がある。前者は3ℓV型6気筒ツインスクロールターボ付きで、最高出力250kW(340PS)、最大トルク500Nm。後者は4ℓV型8気筒に2基のツインスクロールターボ付きの新エンジンで、最高出力338kW(460PS)、最大トルク660Nmと、どちらも余裕のパワー。そして、いずれも8速ティプトロニックと48Vマイルドハイブリッドとの組み合わせにより、高効率で力強い走りを楽しめるのがポイント。モーターのアシストのおかげで、特

に走り出しは感動のトルク感。全長5m超えとはいえ力強くかつ滑るように走り、軽快さすら感じるだろう。

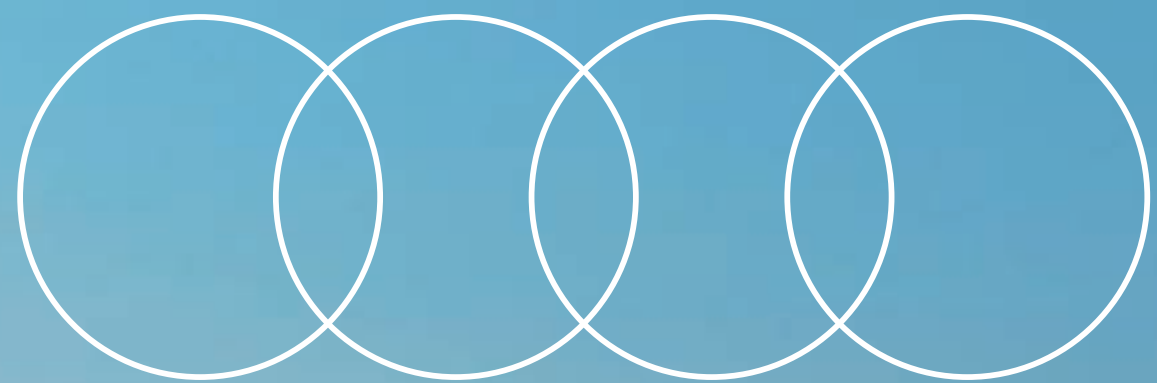
もちろんそんな走りを陰で支えているのは、FRのようなハンドリングとバツグンの安定性を誇る、センターディファレンシャル搭載の“クワトロ”（フルタイム四輪駆動システム）。さらに、快適な乗り心地とスポーティなハンドリングを両立する“アダプティブサスペンション”もいい仕事をしてくれる。

一般道の試乗では、これらの先進技術の組み合わせが“力強くもいい乗り心地”として受け止められるだろうが、果たして旅行やゴルフ場への行き帰りで通る高速道路や山道ではどうか？ 答えは推して知るべし。高速道路では雲の絨毯に乗っているかのように前進。また、コーナーでも快適さはそのままに、スムーズにしてダイナミックな走りを披露してくれるだろう。このへんは、さすがにフラッグシップセダンのなせる業。しっかり試乗すればするほど、クルマ自体のレベルの高さにきっと驚くのではないだろうか。



すべての瞬間に、
こだわり抜いた贅沢を。





ラグジュアリーは、進化する。

The new Audi A8

アウディの美学と情熱がそそぎ込まれた、ひとつの頂点。
新しいフロントグリルをまとう威風堂々とした佇まいと、開放感あふれるインテリア。
そして、洗練されたパフォーマンス。フォーマルセダンの理想がこの一台に。
すべての進化は、あなたと飛躍するためにある。





上質なバルコナレザーで仕立てられたシートに、開放的なラウンジのような空間。フラッグシップモデルとしての設えで、ドライブはさらにラグジュアリーな体験へ。質感とデザイン、機能性を高次元で融合させた空間に身をゆだねれば、心を解きほぐす穏やかな時間が流れる。

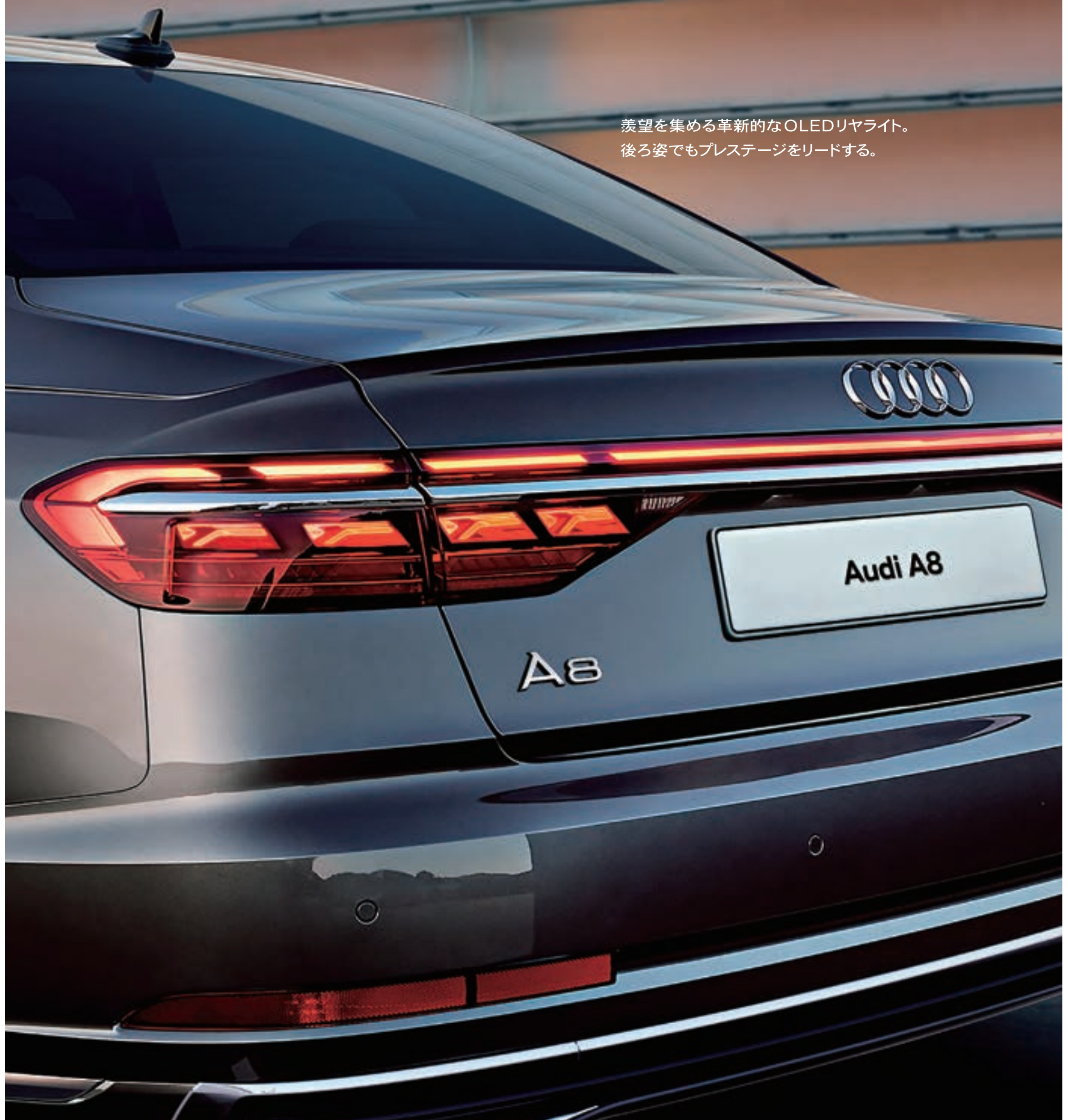


直感的に操作できるバーチャルコックピットをはじめとする
インフォテインメントとAudiの運転支援技術は、
胸のすくようなドライビングのひと時に、
揺らぐことのない安心と快適さをもたらす。

The new Audi A8

詳しくはAudiのWebサイトへ。
audi.co.jp

羨望を集める革新的なOLEDリヤライト。
後ろ姿でもプレステージをリードする。





Point 02 “ショーファーカー”としての至高! 贅を尽くした設えと先進機能で頂点を味わう。

普段から後席に乗る機会が多いエグゼクティブやプレジデントは、いかに後席の“出来のよさ”が大事かわかりだろう。なぜなら、後席はただ単に快適に座れるスペースにとどまらないことを知っているから。

そもそもショーファーカーとは、運転手付きの乗車スタイルに適したクルマであって、後席の快適性やラグジュアリーな設えは当たり前。新型A8もその流儀に倣い、開放的で上質なラウンジをイメージしたものになっている。しかしながら、最近では後席に乗る人のニーズも多様化。快適な乗り心地はもちろんのこと、ライフスタイルやビジネススタイルに応じた細かな配慮や機能性を喜ぶ声も高まっているという。そんな中で新型A8は、標準装備はもとより、多彩なオプションを用意しユーザーのニーズに対応。それだけに後席で試乗すると、今度は新型A8の“今どきのショーファーカー”としての実力が見えてくる。

たとえばビジネスユースで乗車する場合とはどうか。移動中に会社の資料に目を通したり、部下に電話やメールで指示を出すときは、後席はオフィスの意味合いを持つことになる。そんなとき、手元の余裕あるスペースが作業効率を高め、幅広いセンターアームレストは書類などを置くテーブル代わりになる。リヤシー-

ト専用のフルHD解像度10.1インチディスプレイ(オプション)が用意されたのもニュースだ。こちらは乗員のデバイスのコンテンツを表示したり、数多くのオーディオおよびビデオストリーミングを受信したりすることが可能。つまり、ビジネスに関わるデジタル領域での利便性が格段にアップ。同時に、エンターテインメントなお楽しみが広がったことも喜ばしい。

お楽しみといえは、要求の厳しいオーディオファンのために開発された〈Bang & Olufsen〉アドバンストサウンドシステム(オプション)も体験したい。こちらはリヤシートを3Dサウンドで包んでくれるもの。映画なら3Dシアター、音楽なら後席がまさかのライブ会場に。そんな世界に没入できるのも、新型A8ならではの特権といったところだろう。

また、大事なお客様を横に招いたときには、後席は応接室の役割を果たすことになる。その場合、クラフトマンシップによる上質なインテリアが、和やかなムードを演出してくれる。ちなみにオプションを含め、幅広いインテリア仕様を選ぶのは新型A8の強みのひとつ。さらに、オプションのエアクオリティパッケージにおいては、なんとフレグランス機能とイオン化装置が含まれているというから驚くばかり。清浄でいい香りが漂う室内

であれば、身も心もリラックス。大切なお客様に対しても、礼を失することもない。

ことほどさように、新型A8の後席には新世代のショーファーカーにふさわしいラグジュアリーな設えや機能が用意されているのだが、操作系に関してもカンタンで快適であることは言うまでもない。そして、それを叶えてくれるのが“リヤシートリモート”(コンフォートパッケージのセットオプション)。たとえば、読書灯としてマトリクスLEDインテリアライトを使うときは、座ったままでセンターアームレストに備えられたタッチセンサー付き5.7インチ高解像度(1920×1080画素)ディスプレイを操作するだけ。そのほか、シートヒーターやベンチレーション機能を含むエアコンの温度調整、マッサージ機能を含むシート調整、サンブラインド操作なども然り。これらは日頃使っているスマートフォンと同じ感覚でカンタンに操作できるので、あちらこちらに手を伸ばすことがないのは嬉しい限り。ゆったりと座ったままで、最高レベルの快適を享受できるというわけだ。

新型A8があれば、いつだって明日への英気を養うことができるというもの。日々の充実と飛躍を願うなら、一度新型〈アウディ〉A8に息づく“技術による先進”を体験してみるのも悪くない。



Audi A8 55 TFSI Quattro

●全長×全幅×全高:5190×1945×1470mm ●ホイールベース:3000mm ●エンジン:3.0ℓ V型8気筒DOHC インタークーラー付きターボ ●最高出力:250kW (340PS)/5000 ~6400 rpm ●最大トルク:500Nm (51.0kgm)/1370~4500rpm ●駆動方式:四輪駆動(クワトロ) ●車両本体価格:1190万円～

Audi A8 60 TFSI Quattro

●全長×全幅×全高:5190×1945×1470mm ●ホイールベース:3000mm ●エンジン:4.0ℓ V型8気筒DOHC インタークーラー付きターボ ●最高出力:338kW (460PS)/5500rpm ●最大トルク:660Nm (67.3kgm)/1850~4500rpm ●駆動方式:四輪駆動(クワトロ) ●車両本体価格:1635万円～

Audi A8L 60 TFSI Quattro

●全長×全幅×全高:5320×1945×1485mm ●ホイールベース:3130mm ●エンジン:4.0ℓ V型8気筒DOHC インタークーラー付きターボ ●最高出力:338kW (460PS)/6000rpm ●最大トルク:800Nm (81.6kgm)/1850~4500rpm ●駆動方式:四輪駆動(クワトロ) ●車両本体価格:1800万円～

Audi S8

●全長×全幅×全高:5190×1945×1475mm ●ホイールベース:3000mm ●エンジン:4.0ℓ V型8気筒DOHC インタークーラー付きターボ ●最高出力:420kW (571PS)/6000rpm ●最大トルク:800Nm (81.6kgm)/2050~4500rpm ●駆動方式:四輪駆動(クワトロ) ●車両本体価格:2050万円～

※画像はすべてオプション装着車

秋

こそ休日スタイルをアップデートしたい。そんな人はグレーに着目してみるのはどうだろう。「地味に映るのでは？」と思うだろうが、上質素材とモダンなシルエットの服なら、むしろ知性と洗練を引き出してくれるだろう。なかでも“色彩のリズム”を今期のテーマにしている〈エンポリオ アルマーニ〉は、まさにお誂え向き。表情豊かな様々なグレーは、着る人の個性を品よく際立たせてくれる。たとえば写真のムートンジャケットはその好例。まず、ふっくらと厚みのあるムートン特有の起毛感によって、美しい濃淡が浮かび上がる。加えて、このジャケットの前合わせ部分が斜めにデザインされている点にもご注目を。前開きで着ると、ほかでは望めないニュアンスをフロントに作ることもできる。こうした味つけによって演出された表情豊かなグレージャケットは、合わせる服もグレーで揃えたワントーンで着こなすと洗練された印象に。アウター選びになかなか白黒つけられない人は、参考にしてみてはどうだろう。

フロントを閉じると、斜めの前合わせがさらにポイントに。ベストとパンツも、ほんのり起毛感のあるフランネル仕立て。ジャケットより一段淡いグレーが軽快な印象を演出する。ムートンジャケット57万2000円、ベスト6万8200円、シャツ7万3700円、パンツ9万7900円(以上エンポリオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

EMPORIO ARMANI

〈エンポリオ アルマーニ〉なら無彩色でも表情豊か。
知性と洗練にこだわれば
“グレー着こなし”がグッとくる。

過度に主張しない一方、うまく取り入れると知性や洗練された印象を与えられるグレー。では、この色を味方につけるにはどうすべきか？ 答えはカンタン。〈エンポリオ アルマーニ〉の新作アイテムを纏えばいい。その理由は、無彩色でありながら、華やかささえ感じさせる味つけがちりばめられているから。ブランドお家芸の軽くて優しい着心地とともに、その違いを体感してみてほしい。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア＆メイク＝松本 恵 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara (Ca.VN) hair&make-up: Megumi Matsumoto
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima



右: カシミア入りの柔らかな素材。サッシュベルトで絞ると柔らかな風合いも際立つ。ジャケット19万5800円、マフラー2万4200円 中: ウールカシミアの風合いが映えるジャケット。20万1300円 左: ジオメトリック柄が印象的なジャケット。24万2000円(以上エンポリオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

時計としての真価と 高いファッション性が共存。

大ぶりの真円ケースに、簡潔なアラビア数字インデックスとリーフ針。1939年に製作された、懐中時計のムーブメント搭載の腕時計に起源をもつポルトギーゼは、すでに〈IWC〉を象徴するアイコンに。高精度を誇るムーブメント、堅牢さ、さらに高い視認性を確保したダイヤルで実用性を追求。一方、シンプルかつお洒落な佇まいによって、着こなしの洗練度を上げるコーディネート力も発揮する。

そんなポルトギーゼの中でも、特別な存在として注目を集めるのが、メインダイヤルとインダイヤルのコントラストが鮮烈な、通称“パンダダイヤル”。アイコンのデザインがより象徴的で、絶大な人気を博してきたが、今年新たにネイビーブルーのインダイヤルを纏って誕生した。持ち前の端正で知的な雰囲気に、若々しい爽やかさがあるのはご覧のとおり。いつもハードワークを担う上司がこんな時計をしていたら、その余裕の選択に部下たちも尊敬し直すに違いない。もちろん、いつものネイビージャケットとの相性もバツグン。お洒落でも尊敬を集めそうだ。

ジャケット29万7000円、中に着たカットソー 19万5800円(以上ジョルジオアルマーニ/ジョルジオアルマーニ ジャパン)、メガネはスタイリスト私物

PORTUGIESER AUTOMATIC

[ポルトギーゼ・オートマティック]

パワーリザーブ表示とスモールセコンドを横に配置した正統派“パンダダイヤル”。ケース径 42.3mm、自動巻き、SSケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。158万4000円(IWC)



裏側からは、約168時間もの長時間駆動を誇る〈IWC〉の自社製キャリバー“52010”が鑑賞できる

variation



PORTUGIESER CHRONOGRAPH

[ポルトギーゼ・クロノグラフ]

クロノグラフモデルは、積算計とスモールセコンドを垂直に配置した個性的な縦目パンダダイヤル。ケース径 41mm、自動巻き、SSケース、ラバーストラップ、3気圧防水。101万7500円(IWC)

モデル着用はコレ!



IWC

名作〈IWC〉ポルトギーゼの新作は、

部下が思わず2度見する 白×ネイビーの“パンダ顔”。

シンプルなお洒落でいながら、さりげなく名品オーラを放つ“ポルトギーゼ”。世界的にビジネスパーソンから高い支持を集め続けているこの〈IWC〉のフラッグシップコレクションから、待望のブルーインダイヤルのパンダモデルが誕生した。ファッション性、リア度もかなり高く、その存在感は大人の着こなしを格上げし、センスを語ってくれる。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝松本 恵 文＝岡村佳代 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara (CaNN) hair&make-up: Megumi Matsumoto
text: Kayo Okamura composition: Keiko Oshima

ALPHATAURI

快適アウターをモダンに魅せる〈アルファタウリ〉。

見映えする“機能服”なら 街歩きも気分がいい。

今期のアウターはどんなものがいいのか？ 見た目のよさはもちろんだが、やはり快適で機能的というキーワードは大事にしたい。〈アルファタウリ〉はファッションとテクノロジーの融合を掲げ、あのレッドブル社が設立したブランド。いずれのアウターも快適で機能的だが、それだけでなくモダンな仕上がりにも選ぶ理由がある。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア＆メイク＝松本 恵 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: Megumi Matsumoto
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

テクノロジーがもたらす快適さ。

最近よく耳にするのが“〇〇テック”という言葉。テックとは技術を意味し、これを様々な分野の言葉に結びつけて、新しい意味が生まれたりしている。たとえば、健康管理にIT技術を融合したものを“ヘルステック”と呼んだりするのもそのひとつ。そして、こうしたテクノロジーとの融合をファッションの分野でスマートに実現しているのが〈アルファタウリ〉。F1チームの“スクーデリア・アルファタウリ”をサポートするブランドだけに、その先進性や

機能性、そしてプレミアム性を追求める姿勢が秋冬アウターからも感じられる。たとえば、このページにあるジャケットに使用されている“プリマロフト”は、羽毛のような軽さと高保温力を備え、かつ羽毛にはない撥水性を備えた薄手のハイテック中綿。ジャケット表面はウール仕立てだからスラックスにさらりと合わせられ、軽快でスマートなジャケットスタイルを楽しめる。“ファッションテック”の心地よさと見映えのよさを是非体感してほしい。

PRIMALOFT PADDING WOOL BLAZER

[プリマロフト パディングウールブレザー]

プリマロフトを中綿として内蔵しながらも、その厚みを感じさせない美しいシルエットを描いたウールのブレザー。取り外し可能なジップアップニット付きで、着るだけで見映えのいいレイヤードが完成。ジャケット10万6000円、パンツ4万500円(以上アルファタウリ)、その他はスタイリスト私物



Detail

スタンドカラーのニットを取り外せば、通常のジャケットデザインに。シャツはもちろん、比較のカジュアルなインナーもよく似合う

Information

伊勢丹新宿店メンズ館にてポップアップが開催。

10/5(水)～18(火)まで、伊勢丹新宿店メンズ館にて〈アルファタウリ〉のポップアップショップが日本初開催。選りすぐりのアイテムを店頭でチェックできる機会を、是非お見逃しなく。




Detail

見た目はまさにウールそのもの。左上腕部に施されたロゴパッチがアクセントにもなる

WATERPROOF CABAN COAT

〔防水ウール キャバン コート〕

一見、クラシカルなギャバジンコートと思いきや、ウールエラストン素材で耐水性を高めた全天候型の素材。ボタンのとめ方次第で印象も一変。公式オンラインストアのみで販売。コート9万8000円、パンツ3万2500円(以上アルファタウリ)、その他はスタイリスト私物




Detail

各所のジッパーは、YKK社の止水仕様。エレメントが目立たず、見た目もすっきり

PRIMALOFT PADDING JACKET

〔プリマロフトパディングジャケット〕

中綿には、薄手でも暖かいプリマロフトを使用し、軽やかな着心地に。新鮮かつ洗練された配色でテック感を中和したウォータースプルーフ素材のボディが、街にすっと溶け込む。ジャケット7万3500円、ニット4万4000円、パンツ4万500円(以上アルファタウリ)




ALL-OVER PRINT PUFFER JACKET

〔オールオーバープリントパファージャケット〕

ジャカード織りのモノグラムを、全体に施したジャケット。表地は防水性に優れ、中綿のプリマロフトは、濡れても保温力が低下しない。公式オンラインストアのみで販売。ジャケット9万8000円、パンツ3万2500円(以上アルファタウリ)、その他はスタイリスト私物

Detail

表面の総柄として描いたモノグラムはウォータースプルーフ素材。上腕部にロゴパッチ入り




Detail

フロントを開くと、風を防ぐ幅広の前立てに描かれた、ブランドのシグネチャーが現れる

LEATHER BOMBER JACKET

〔レザーボンバージャケット〕

取り外せるボア襟が特徴的なブルゾン。毛足を美しく整えたゴートレザー製。ゴートレザーは、軽量ながら皮革を上まわる強度を誇る。Wジップも機能的。ジャケット14万7000円、ニット4万4000円、パンツ3万2500円(以上アルファタウリ)、その他はスタイリスト私物



ISETAN

新しい提案はいつも〈イセタンメンズ〉から。
この秋、上質ブレザーを選ぶ理由。

〈イセタンメンズ〉に足を運ぶべき理由はいくつかある。そのひとつがテイラードファッションの楽しさを再発見させてくれること。なかでも今期の注目はネイビーのブレザー。普遍的なアイテムだが、上品さと適度なカジュアルさを併せ持つゆえに、今どきの仕事スタイルにはぴったり。頼もしい戦力になってくれそうだ。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア＆メイク＝松本 恵 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: Megumi Matsumoto
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

柔らかな着心地、動きやすさ、すべてに上質さが宿る1着。

絞りのゆるいシルエットで、クラス感を感じさせる1着に仕上げたダブルのブレザー。素材はウールにシルクを混紡した極めて上質なもので、肩まわりも動かしやすく快適このうえない。ジャケット22万円(カルーゾ/伊勢丹新宿店)、シャツ3万3000円(バルバ/伊勢丹新宿店)、ネクタイ2万4200円(ドレイクス/伊勢丹新宿店)、パンツ3万5200円(ベルウィッチ/伊勢丹新宿店)、シューズ15万4000円(ジェイエムウエストン/伊勢丹新宿店)、ポケットチーフ5500円(ムンガイ/伊勢丹新宿店)、右のハンガーのブレザーは左ページ左下と同じ



カジュアルなインナーも合わせやすい万能型ブレザー。

アイビースタイルをアップデートしたデザイン。カラダに自然に沿わせたいウエストが美しいドレープを描く。動きやすい作りなのでオンはもちろんオフシートの着こなしにも対応する。ジャケットオーダー価格9万9000円(テラーケイド/伊勢丹新宿店)、ワッペンがスタイリスト私物



マスキュリンなシルエットを求めるならこれ一択。

ブランドを代表するモデル「モンテカルロ」。ゆとりを持たせた胸幅や背幅に対し、ウエストを強く絞ることで凛々しいシルエットを描く。ジャケット9万4600円(タリアートレ/伊勢丹新宿店)、ポケットチーフ7700円(ムンガイ/伊勢丹新宿店)、シューズ5万3900円(フェランテ/伊勢丹新宿店)

リ モートワークから出社がメインの勤務スタイルへ。あるいは、在宅とオフィス勤務を組み合わせたいハイブリッド型への移行も増えた昨今。仕事服を取り巻く環境も、また少しずつ変わってきた感がある。そんな今の温度感にちょうどいいきちんと感を表現できるのが、上品かつ肩肘張らず着られるネイビーブレザーだ。なかでも〈イセタンメンズ〉が提案する新作は、いずれも仕立てのよさが違う。それは右ページの写真で着用した〈カルーゾ〉の1着を見ても明らか。同社はハンドとマシンを融合した仕立てに定評があり、副資材を極

力省いたアンコンを採用。絞りのゆるいボックスシルエットで、シルク混ウールの柔らかな着心地を存分に体感できる。よりモダンなスタイルが好みなら、エレガントなシルエットを得意とする〈タリアートレ〉という選択肢もある。また、〈イセタンメンズ〉が誇る日本人テーラーのブランド〈テラーケイド〉や〈ラ スカーラ〉のMTMで、好みの1着をオーダーしてみるのも楽しい。いずれにしても、久しぶりにジャケットの装いを前向きに楽しみたい気分にしてもらえるものばかり。着れば仕事との向き合い方にも、好影響が期待できそう。



普遍的ミディアムフィットを現代的な味つけとともに楽しむ。

国内有数のファクトリーで縫製を行った、構築的なシルエットを描く1着。適度なゆとりを持つバランスのよいフィット感が楽しめる。ジャケットオーダー価格9万9000円(ラ スカーラ/伊勢丹新宿店)、上のネクタイ1万7600円(フランコ パッシ/伊勢丹新宿店)、下のネクタイ1万4300円(アルデア/伊勢丹新宿店)

INTERVIEW*

時計界では若手の〈ベル&ロス〉が存在感を放つ理由。

航空機の計器から着想を得た独創的なデザイン。そして、世界の時計通に加え、あのラルフ・ローレン氏の愛用でも話題になった〈ベル&ロス〉。高級時計業界では少数派のフランスブランドで歴史も浅いブランドが、なぜここまで愛される存在になったのか？ 創業者とともにブランドを育ててきたキーパーソンに聞いてみた。

写真＝正重智生 文＝遠藤 匠 photo: Tomoo Syoju (BOIL) text: Takumi Endo

航

空機と腕時計という共通の趣味を持つブルーノ・ベラミッシュ氏とカルロス＝アントニオ・ロシロ氏が、〈ベル&ロス〉をパリで創業したのは1994年のこと。200年以上の歴史を持つ老舗も珍しくない高級時計業界においてはまだまだ新参者だ。しかし、同社の時計は他に類を見ない存在感を放ち、目の肥えた時計愛好家の心を掴んでいる。果たして、その秘密はどこにあるのか？ 2010年に販売部門トップとして入社し、2人の創業者とともにブランドを育ててきた、ジェネラルマネージャーのファビアン・ドゥ・ノナンクール氏に話を聞いてみた。

「アビエーション(航空学)を着想源とする時計ブランドは、決して珍しいものではありません。それだけでアイデンティティを確立するのは、難しいことだといえるでしょう。しかし、〈ベル&ロス〉はコックピットの計器そのものをインスピレーション源としています。"インストゥルメント・ウォッチ(計器としての腕時計)"というコンセプトは非常にユニークなものであり、それが魅力となっているのです。加えて、ブランドの世界観を"BR 03"と"BR 05"という2つのピラー(柱)となるコレクションで楽しめることも、強みといえるでしょう」

前者の"BR 03"は、コックピットの計器がそのまま時計になったような迫力ある正方形ケースを特徴とし、ひと目で〈ベル&ロス〉だとわかるアイコンックなコレクション。これに対して後者は、"BR 03"を"都会の中の探索者"というコンセプトで再解釈したもの。四角と丸を合わせた、ブランドのアイコンともいえるケースと美しいブレスレットを一体化させ、都会的なスタイルに落とし込んだラグジュアリースポーツウォッチだ。

「"BR 03"は力強さが魅力の時計ですが、実はブティックには"大きすぎて合わせる装いや人を選ぶ"というお客様からの声も寄せら

れていました。こうしたことを受け、シーンを選ばずに身につけられ、ビジネスでも使いやすい時計として、デザイナーのブルーノが提案してきたのが"BR 05"です。どちらも同じ世界観を持つ時計ですが、"BR 05"が加わったことで新しいお客様が来てくださるようになりました。当初は2つのコレクションがお客様を取り合ってしまうのではと心配でしたが、幸いなことにそれはありませんでした(笑)。双方のモデルがカバーしきれないものを補完し合うことで、ビジネスの面でも広がりが生まれています」

腕時計のブランドを成長させ、ビジネスを成功に導くうえで大切にしてきたことを尋ねると、「原点に忠実であること」と即答した。

「自分たちが決めたことに対し、一貫性を持ち続けること。非常に時間がかかることではありますが、自分たちの道というものを一途に守りながら展開することで、継続的に成長できると考えています。もちろんビジネスという側面を見れば、私たちは時計で売り上げを作っているわけですが、だからといってニッチなマーケットを設定し、そこで喜んでもらえる製品を作るという考え方はしていません。2つのピラーである"BR 03"と"BR 05"でブランドのストーリーを紡ぎ、それを潜在のお客様に語りかけていく。年月がかかってもいいんです。そういった手法で前に進んでこられましたから」

また、ブランドのストーリーを語りかけるための場所として大切にしているのが、ブティックの存在。この夏には、東京・銀座ブティックに続き、国内2店舗めとなる大阪・心斎橋ブティックをオープンしたばかりだ。

「コロナ禍によって"eブティック"がお客様とのタッチポイントとしてより重要なものになり、インターネットを通じてブランドや製

品のことをよく調べてくださる方も増えました。しかし、私としては、そういったお客様の満足度をさらに上げるためにも、実店舗のあり方がこれまで以上に重要になってきたと感じています。実は、私は〈ベル&ロス〉のブティックと時計は同じようなものであるべきだと思っているんです。私たちの時計は無駄な装飾を省き、機能を前に立たせることが基本コンセプトですが、ブティックの設計コンセプトも全く同じもの。だからこそ、この空間に来ていただくお客様にブランドのストーリーを感じてもらえ、〈ベル&ロス〉でしか提供できない購入体験を作り出すことができと思っています」

ブティックを通じ、培ったファンベースをより強固にすることにも力を注いでいるという。

「ブティック限定モデルのような付加価値のある製品で、新しいものを待ってくださっているお客様に応えていく。これも大切にしていることのひとつです。ある時計ブランドは200年かけて強固な世界観を確立しました。私たちの歴史はまだ30年程度。ゆっくり時間をかけて、ファンの輪を広げていきたいですね」

〈ベル&ロス〉
ジェネラルマネージャー
Fabien De Nonancourt
ファビアン・ドゥ・ノナンクール

父が勤めたフランス最大手のシャンパーニュメゾン、ローラン・ペリエ社でのインターン時代にラグジュアリーな世界に惹かれ、時計業界へ。14年間に在籍した〈タグ・ホイヤー〉でジェネラルマネージャーを務め、アジアを担当した4年間は日本在住。2010年に販売部門トップとして〈ベル&ロス〉に入社し市場開拓に貢献。2017年より現職。



〈ベル&ロス〉心斎橋ブティック

④大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-10-12
🕒11:00 ~ 19:30
☎06-6786-8993

📍ベル & ロス 銀座ブティック ☎03-6264-3989

BR 05 GMT WHITE

[BR 05 GMT ホワイト]

ジェットセッターにふさわしい都会派GMTモデル。

2022年6月発売の新作は、オパールホワイトの文字盤が美しいGMTモデル。2つの異なる時間帯を表示し、海外出張をこなすビジネスマンにはうってつけ。ケースと一体感のあるしなやかなブレスレットが良好な装着感を叶える。ケースサイズ41×41mm、自動巻き、SSケース & プレス、100m防水。64万9000円(ベル & ロス/ベル & ロス 銀座ブティック)



The joy of being able to eat locally produced food!

HOTEL WITH WILD GAME MEAT*

ここでしか食べられないという贅沢に満たされる!

“ジビエ”とは狩猟で得た野生の鳥獣をいただく、ヨーロッパでは貴族が育んだ伝統的な食文化。独特な香りや味が苦手と感じた人も、丁寧な下準備や調理法によってそれが美味しさになる。この秋、野性味あふれる味に挑戦してみては?

文＝古関 千恵子 text : Chieko Koseki

01 地元食材がシェフの手で驚きのひと皿に。

LEVO

【レヴォ】

オナーシェフの谷口英司氏が、新たなオーベルジュの移転先として選んだのは、富山県の中でも秘境とされる、利賀村。富山駅からクルマで約1時間半、アクセス至難にもかかわらず客が引きも切らない。その深い山懐に抱かれたこの地から、“前衛的地方料理”を発信している。

ここは、レストランを中心に3つの宿泊棟や菜園が広がり、日本の原風景が味わえる。そして、“究極の地産地消”を目指し、富山の山の幸、海の幸をシェフのアイデアで唯一無二の料理に昇華。

地元産のジビエも、ツキノワグマやニホンジカなど、バラエティ豊かなのも特徴。レストランにはジビエの熟成室も備えている。〈レヴォ〉のために造られたワインや地ビール、日本酒などとのマリージュも芸術的。宿泊は1日3組。日帰りのレストラン利用のみも受け付けている。『ミシュランガイド北陸2021特別版』で、2つ星を獲得。

DATA

⑨富山県南砺市利賀村大勘場田島100
☎0763-68-2115
<https://levo.toyama.jp/>



契約猟師から仕入れ、衛生管理されたジビエ熟成棟で寝かせ、最高の状態で提供。こちらは薪で火を入れたニホンジカ。野菜も濃厚



A: かつての集落のように、3棟のコテージが点在。当時の家具や建具を再利用しつつ、現代の居住性とデザイン性の高さを実現 B: オーベルジュの中心的存在のレストラン。オープンキッチンの活気が伝わる一方、窓の向こうには四季折々の利賀村の風景が広がる C: 富山の大自然が仕入れ元。清らかな山水で育った川魚をはじめ、食材が持つ本来の滋味とシェフの感性がスパークする

03 風情あふれる景観で伊豆鹿を堪能。

OCHIAIRO

【おちあいろう】



A: 昨年、焼き物・魚で供された、かますとシャンピ富士の炭火焼きと、からすみの磯辺餅 B: 昨年は、前菜では伊豆鹿のローストや天城軍鶏肝の旨煮、揚げ物に原木椎茸と猪のつくね揚げや猪ロースニラ巻きなど、伊豆のジビエを提供。今年の料理も楽しみ C: 14の客室はすべてしつらえが異なる。こちらの“浮舟”は露天風呂付き。春には桜の巨木から花びらが舞い散る、風雅な眺めが楽しめる

伊豆・湯ヶ島の山に囲まれ、2本の川が合流する(川が“落ち合う”ことが宿名に)畔に建つ登録文化財の温泉宿。明治7年に建造された宿は、川端康成や島崎藤村など文豪も足しげく通ったとか。4000坪の敷地に客室はわずか14。歴史ある佇まいを保ちながら、水まわりはリニューアルされ、快適性はきっちり確保。自慢の食事は、四季折々の伊豆の味わ

いでもてなすコース料理。天城で獲れたジビエ目当てで訪れるゲストも多い。秋の料理には、“伊豆鹿ロース薫焼き”や、“天城紅姫あまごと原木椎茸巻き”などが並ぶ。温泉に浸かり庭園を散歩し、ゆったりした時間を。

DATA

⑨静岡県伊豆市湯ヶ島1887-1
☎0558-85-0014
<https://www.ochiairo.co.jp/>

02 天然食材を生かした優しいフレンチ。

ZENAGI

【ゼナギ】



A: “坪井さんの日本鹿”。生き物の行動や習性によって調理法や食べ方を変えた料理はジビエのイメージを一新させる B: 山・森・川に抱かれ、棚田を望むロケーション。212㎡ものリビング、3部屋のプライベートルーム、レストラン棟からなるスペースを1組だけで貸し切りに C: 江戸時代の古民家を、木曾のアートやクラフトの粋を集めてリノベート。ふるさとに帰ったような懐かしさがある

木曾の山中に佇む、1日1組限定の古民家ラグジュアリーホテル。“人生最高の休日”に仕上げるべく、プライベートバトラーがオリジナルの旅をテラーメイドしてくれる。ホテル内のレストラン“□△○(まるさんかくしかく)”では、ジビエや天然キノコなど、アルプスの天然食材を生かした“究極のスローフード”を提供する。地元の名ハンターが仕留め

た鹿などを、岐阜・郡上では知らない者はいないというジビエ職人・坪井氏が加工。個体や部位により4日～2週間熟成させた後、炭と薫でゆっくりと焼き上げる。どんぐりや木の実を食べて育ったジビエの、甘い香りがたまらない。

DATA

⑨長野県木曾郡南木曾町田立222
☎090-6072-8392
<https://zen-resorts.com/>

ArtSticker presents

ART INTO LIFE*

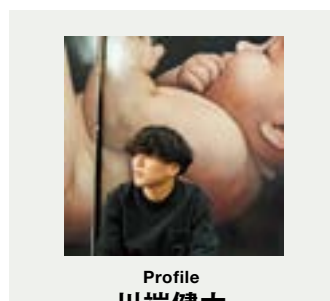
超絶技巧による精緻な絵画の中に、アーティストの意外な意図が!?

現代美術に造詣の深い塚田萌菜美さん(ArtSticker)にナビゲートいただき、アート初心者の方にもわかりやすくアートの見方を解説するこの企画。今回は、学生時代からバスケットボールに夢中だったという完全体育会系の川端健太さんに、作品の制作方法などを伺いました。

写真＝田中駿伍 監修＝塚田萌菜美 文＝長谷川 剛 構成＝堀川博之

photo : Shungo Tanaka(MAETTICO) supervision : Monami Tsukada(ArtSticker)

text : Tsuyoshi Hasegawa(TABLE ROCK) composition : Hiroyuki Horikawa



Profile

川端健太

画家。東京藝術大学大学院博士在籍。現代的な視覚体験や感覚、個人の記号化や、インターネットの普及に伴う人とのコミュニケーションの多層化など、人と人との情報伝達を間接的にしていると思われる隔たりについて考え絵画彫刻を制作している。2019年に東京藝術大学大学美術館に収蔵。O氏記念奨学生、クマ財団4期奨学生、佐藤国際文化育英財団奨学生、神山財団奨学生。東京藝術大学美術学部を油画首席、学部総代として卒業。

作家詳細は
こちらから



ArtSticker
塚田萌菜美

アートスペシャリスト。成城大学大学院文学研究科美学・美術史専攻博士課程前期修了。SBIアートオークション株式会社でオークション・広報・営業を担当した後、現在はArtStickerを運営する株式会社The Chain Museumにて、キュレーションやアドバイザーを担当している。



塚田(以下T): 作品に光沢を出すこと、そして、近作で目を歪ませることが多いのはなぜですか？

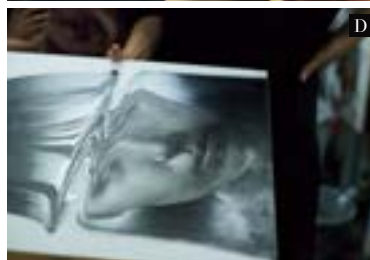
川端(以下K): 絵画はその時代の状況を反映するため、今の特徴を捉えることはアーティストとしての重要な役割のひとつ。自分たちは今、ほとんどの情報をスマートフォンなどの液晶画面を通じ、獲得しています。また、オンライン上のやりとりでは、相手は実際に目の前にはいませんが、目を合わせて会話が出来ます。また、画面をオフにすると、そこには自分を見つめる自分の目が浮かびます。こうした効果についての考察も作品に反映しています。

T: 作品で赤ちゃんを描いたのは、どのようなきっかけがあったのでしょうか？

K: 対象人物の生涯を通して取材し、絵画として残していきたい。ライフワークとしてこちらの赤ちゃんの成長を追っていきます。

T: 今後、どんな作品を作りたいですか？

K: もっと大きな絵を描きたいですね。みなさんも、大きなものを見たとき、「衝撃が大きくて言葉が出ない」といった体験はありませんか？ そんな体験をしてもらえるような、大きなサイズのものを手掛けたい。また、モノクロで描きつつ、色味を感じるような表現に到達したいです。



A: 制作に2年を費やした大作。今後この赤ちゃんの成長を追う
B: 作品の上から独特のブロック状のシルクスクリーンでツヤを出すことで、いい意味での違和感が生まれる C: 使用するキャンバスにも様々な下地作りを試行錯誤 D: ツヤ加工する前の作品。光沢は鉛筆による細部ではなく、全体へ視線誘導する効果を生む E: 使用する塗料も、成分配合を微調整しながら最善のものを製作している

ジャケット15万2900円、シャツ
3万7400円(以上ラルディーニ
／トヨダトレーディング プレ
スルーム)、ポケットに差したメ
ガネ5万600円(アイヴァン
7285／アイヴァン 7285 トウ
キョウ)、腕時計107万2500円
(ブライトリング／ブライトリ
ング・ジャパン)、その他はスタ
イリスト私物

EDWIN

モダンに最適化された〈エドウィン〉“503”。

ビジネス映えする 王道デニムを知る。

生活スタイルの変化に寄り添い、その時代に合ったベーシックデニムであり続けてきた〈エドウィン〉の“503”。なかでも注目したいのは、現代的な着こなしや体型を分析し、より洗練されたストレートに生まれ変わったレギュラーフィット。変にカジュアル見えせずに品のよさと快適さを享受できるそのスタイルは、現代のビジネスの装いにもよく映える。

写真＝古川義高、丸益功紀 スタイルング＝柳川武史
ヘア & メイク＝高山ジュン 文＝遠藤 匠
photograph: Yoshitaka Furukawa(ica), Kouki Marueki(BOIL)
styling: Takeshi Yanagawa(remix)
hair&make-up: Jun Takayama text: Takumi Endo



詳細はこちら



503 REGULAR STRAIGHT

[503 レギュラーストレート]

クラウドボウ社と開発したリサイクルデニムを採用している。製造から10年間は、無償で修理や修繕を受けられるのも嬉しい。1万1000円(エドウィン／エドウィン・カスタマーサービス)

2022年版“503”は理想的な “ビジネスパートナー”になる。

1997年の誕生以来、永遠のベーシックデニムとして愛され続けてきた〈エドウィン〉“503”。いつの時代も定番かつ王道であり続け、当たり前のように穿かれてきたモデルだ。そして気づきにくいかもしれないが、かつての“503”と今の“503”は微妙に違っている。実は時代の変化に合わせてポケット位置やシルエットといった仕様を最適化。いつの時代もベーシックであり続ける理由はここにある。

変化といえば、ビジネスの装いもかつてとはずいぶん変わってきた。もちろんビジネスにふさわしい礼節は保つ必要はあるが、むしろ適度なカジュアル感があるほうがバランスよく見える場面が多い。そんな中、実は今の“503”のレギュラーストレートは、現代のビジネススタイルのよき相棒になってくれる。すっきりさせたそのシルエットはご覧のとおりジャケットとの親和性が高く、品よく穿ける。もちろん、いまや不可欠の伸縮性も備わっている。これこそ、快適かつ柔軟に仕事と向き合える1本といえるだろう。

DX デジタルトランス フォーメーションに取り組むなら、 RPAロボパットDX。

RPA
Robo-Pat DX

口コミ公開中

顧客満足度

No.1

ITreview RPAカテゴリーレポート
2022 Summerより

導入社数

950社突破！※

※2022年6月末時点で契約中の企業・団体数

オフィスで日常的に行われている作業をソフトウェア
ロボットにあらかじめ登録しておくことで人が操作を
しなくても、PCが自動的に作業を行う「RPA」

こんな方は、是非お申し込みください！

- ✓ DX推進で悩んでいる
- ✓ RPAについて知りたい
- ✓ 業務を効率化したい

さいとう

© さいとう・たかを / さいとう・プロダクション / 小学館

DX (デジタルトランスフォーメーション) なら『RPAロボパットDX』

無料セミナー開催中！ まずは、お申し込みを▶

ロボパット DX

株式会社 FCE プロセス&テクノロジー



Behind the success of businessmen

ELEVATE YOURSELF*

自分の“好き”を深掘りすることからはじまる。

ビジネスの世界で結果を出している人は、果たしてなにによって自分を高め、力を得ているのだろうか。今回はサステナビリティをはじめとする社会課題と向き合い、今までにないアプローチで新ビジネスを生み出す菅野 充さんに斬新な発想の源を語ってもらった。

写真＝正重智生 文＝遠藤 匠

photo : Tomoo Syoju (BOIL) text : Takumi Endo



'60年代の音楽に触れるために手に入れたレコード。ザ・ローリング・ストーンズに加え、それを辿るように聴きはじめたビートルズやザ・フーの音源もある

Mitsuru Kanno / 菅野 充

“社

会課題をエンターテインメントで解決する”をテーマに掲げ、これまで交わることのなかった

様々なモノを繋いでいく。そんな新しいビジネスを手掛ける菅野 充さん。なかでも“THAT'S FASHION WEEKEND”が今注目されている。これは、サステナブルなファッションを目的に企画されたイベント。ブランドのチャリティセール、若手支援、情報発信という3つの柱で“地球に優しく生きる”という価値観を広めることが狙いだ。この秋2年めを迎え、東京のみだった開催地が北九州、札幌、東京の3都市に拡大。泉谷しげるが発起人のロックフェスとコラボが決まるなど、まさにエンタメの力でサステ

ナブルという社会課題にアプローチしたイベントに。では、そんな斬新な発想はどこから生まれるのだろうか？

「好きなものを深掘りせずにはられない。そんな性格が仕事に繋がっています。この仕事を立ち上げたのは35歳ですが、実はそれまで自分に向いている仕事に出会えず、もがいていたんです。でもその過程で、“これは自分には合わないな”というものをひとつひとつ排除し、“もっと追求したい”と思うものを積み重ねるという作業が自然とできました。“好きなものを掘り下げていく”ことをやり続けた結果、今の自分が形成されたという感覚です。たとえば自分はファッションも音楽もどちらも好き。その好きなファッションが今、大量消費時代からサステナブルへの転換を必要としている。それが音楽フェスと繋がったら、もしかしたら今までにないなにかを生み出せるかもしれない。そんなふうに関心なことを繋げていくという発想が、いつの間にか自分のスタイルになっていました」

その原点は、服飾専門学校卒業後に1年間暮らしたロンドンでの生活にはじまる。

「1960年代のイギリスの文化が好きなのですが、それを深く知ったのは当時暮らしたロンドンでした。きっかけは、中学時代に憧れたザ・ブルー・ハーツ。彼らが影響を受けたのが、'70年代のセックス・ピストルズだと知ってそれにハマって。さらに彼らが影響を受けたのがザ・ローリング・ストーンズだと知り、最終的にはストーンズにどっぷり(笑)。まだ彼らが20代だった頃の'60年代の音源を聴き衝撃が走りました。当時の彼らのファッションに懐かしさを感じ、'60年代スタイルにもハマっていきました。ロンドン時代はマーケットでその年代のヴィンテージ服を購入しましたね。今でもよくそれを着たりしています」

服や音楽をとおして、'60年代のイギリスに触れ続けることには大きな意味がある。「'60年代のストーンズが表現していたのは、20代ならでは音楽。ハングリーな年代の表現だからこそ伝わるものがあるんです。新しいものを生み出すために常にハングリーでいたいという思い、当時の彼らの思いに触れることは、ハングリーさを持ち続けるうえで僕の力になっています」



A: ロンドンのマーケットにかよって見つけては購入した'60年代のヴィンテージ服。ビジネス服としても着用し、自分のキャラクターを印象づけている B: 腕時計やカフリンクスといったアクセサリーも、'60年代のものと思われるヴィンテージを愛用。いいものを長く着ることで、SDGsのマインドを体現している

THAT'S FASHION WEEKEND株式会社 菅野 充さん



バンタンデザイン研究所卒業後、1年間ロンドンに留学。帰国後はアパレル繊維卸業勤務で経験を積み、38歳で企画プロデュース会社(バンクシー)を設立。社会課題の解決に繋がる様々な事業を手掛けている。



HOUSETRAD

『Safari Online』で『Safari』監修の別荘の詳細をチェック!

『Safari』×ハウストラッドの別荘がついに完成。物件の詳しい情報などを『Safari Online』でご紹介。気になった方はQRコードからチェック!



〈ハウストラッド〉が造る、癒しの空間。

自然あふれる軽井沢に佇む 離れを持ったハイクラス別荘。

昨年12月からはじまった『Safari』×〈ハウストラッド〉の別荘プロデュース企画。約8カ月の期間を経て完成し、ついにお披露目となった。モダン建築の外観はそのまま生かし、室内はフルリノベーション。現代風にアレンジされた別邸がアナタの訪問を待っている。

写真＝橋本裕貴 文＝中城邦子

photo : Hirotaka Hashimoto text : Kuniko Nakajo

HOUSETRAD

アメリカナイズされた
上質な住空間を提案。

“古くなって捨てられるようなモノは、買わない、売らない、つくらない”が理念のリノベーション会社。個人宅以外にも、オフィス、店舗、オーダー家具までデザイン。専属の不動産アドバイザーもいるので物件紹介も可能。住空間のスペシャリスト。

④東京都目黒区中目黒1-9-3
ROJU NAKAMEGURO
☎03-6412-7406
<https://housetrad.com/>



軽

井沢の中でも、羨望と人気を集めているのが千ヶ滝西区。その一画にかねてよりリノベーションを進めていた『Safari』プロデュースの別荘が完工した。白樺やミズナラの木々の奥に、木の質感に黒のフレームを効かせたシックなデザインの建物が見え隠れする。「塀や遮蔽物はできる限り設けないこと」とされている美しき別荘地ならではの景観だ。もともとは有名企業の会長がプライベートで使用するために建設した別荘。確かな躯体や硬質

で艶やかな床などは生かしながら、タイル張りのキッチンやヒノキのバスルームなど、機能性と美しさを高めて、建物を持つ経年の魅力を引き出しリノベーションした。自然が描き出す美しさと対峙するリビング、外の風を感じながら読書ができる奥行き1.5mのウッドデッキ、おこもり感のある離れなど、その日の気分で好きな場所で自由な過ごし方ができる。2ベッドルームのほか離れにもベッドルームがあり、友人や家族と、そして1人でも愉楽のときを過ごせる、心満たす建物だ。

Gastronomic City TOKYO*

今 年度の『世界のベストレストラン50』が、7月18日にロンドンで発表された。そのランキングで初入賞し、41位を獲得したのが大阪の〈ラ シーム (La Cime)〉である。シェフの高田裕介氏は、フランス料理の技術や伝統を熟知しながらも、自由奔放な表現主義と独自のフレーバーを料理に盛り込み、美食家たちだけでなくプロの料理人たちからも絶大な評価を得ている。『アジアのベストレストラン50』では、シェフが選ぶ“シェフズチョイス賞”の受賞歴もあるほどだ。

その彼がプロデュースする〈ナイン バイ ラ シーム (NINE by La Cime)〉が7月7日に東京・丸の内にオープンした。この店は、すでに2020年にオープンしているレストラン〈THE UPPER〉内の9階に増設された。シェフを任されたのは徳島亨氏で、高田シェフがイメージする“東京の香り”というテーマを12皿のコースで表現する。どの料理の風味にも詩的ともいえる陰影のフレーバーがあり、五感で楽しめる内容となっている。

一方、7月1日に東京・紀尾井町にオープンした〈マス (MAZ)〉をプロデュースするのは、ペルーのレストラン〈セントラル (Central)〉のシェフ、ヴィルヒリオ・マルティネス氏である。その〈セントラル〉は、今年度の『世界のベストレストラン50』では2位にランクインし、来年以降は世界1位の呼び声も高い。

彼はペルー各地の高度によって異なる様々な生態系を調査し、現地ですら忘れ去られた食文化を紐解きながら、ペルーの生物多様性や食の豊かさを一皿に表現し、世界を驚かせた。東京の〈マス〉でも、そのペルーの異なる高度が織りなす9つの風景と生態系を表現したコースを提供する。食材の一部は、ペルーから独自に運ばれるというが、筆者自身、今まで味わったことのない風味や食感に驚かされた。珍しさだけでなく味わいや食感の調和も秀逸である。ほかでは出合えない料理という意味で、是非一度訪れてみてほしい。



取材・文 中村孝則 美食評論家

1964年神奈川県葉山生まれ。ファッションからカルチャー、美食などをテーマに新聞や雑誌、テレビで活動中。主な著書に『名店レシピの巡礼修業』（世界文化社）がある。2013年より『世界ベストレストラン50』の日本評議委員長も務める。'22年春より、JR九州が運行する「なつ星 in九州」の車内誌の編集長に就任。



“ルバーブ”は、国産のルバーブの豊かな酸味をビクルで味わう一皿。ハイビスカスの酸味が重奏する



NINE by La Cime

〔ナイン バイ ラ シーム〕

2人のシェフが生み出す東京フレーバー。

大阪〈ラ シーム〉の高田裕介シェフがイメージコンセプトやアイデアを出し、徳島 亨シェフがそれを具現化する。フランス料理を基軸とする2人のシェフのセッションによって生み出される料理は、日本各地の食材を使い12皿のコースで構成される。

A: ライチの果肉で作ったゼリーにバラのクリーム、その上にキャビアを載せて薔薇の花びらをまどわせた“ライチ”。ライチの甘味とキャビアの塩味のコントラストが絶妙な逸品 B: 店を任されるシェフの徳島 亨氏(左)は福島出身。右はパートナーシェフの高田裕介氏 C: “ブーダン”は大阪〈ラ シーム〉の名称“ブーダンドッグ”をアレンジ。徳島シェフの地元の鯉を食材に使う D: 丸の内の景観を望む店内

DATA

④東京都千代田区丸の内1-3-4 丸の内テラス9F
 ⑨18:00~23:00(最終入店20:00)
 ⑤月・火曜(祝日は営業) ☎03-6206-3939(予約はWEBのみ)
https://the-upper.jp/nine_by_lacime/

MAZ

〔マス〕

南米最高の店の味を東京で体験する贅沢。

ペルーの生物多様性と南米固有の食文化を、モダンな料理として表現し、世界の美食家たちから絶大な人気を誇る〈セントラル〉の、実質上の東京支店といえるのが、この〈マス〉である。食材の2割は、そのペルーからの直送。未知なる風味やフレーバーに驚かされること必至。

DATA

④東京都千代田区紀尾井町1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町3F
 ⑨17:00~23:00
 ⑤火曜 ☎03-6272-8513
<https://maztokyo.jp/>

“海霧 海拔0M”は、ペルーのタコを、様々な調理法で味わえる一皿



A: ペルーの風景にインスパイアされた店内 B: ペルー出身のヴィルヒリオ・マルティネス氏(左)と、〈マス〉のヘッドシェフを任された、サンティアゴ・フェルナンデス氏(右) C: “アンデスの森 海拔3260M”は、アンデス原産のジャガイモをチャコ粘土で蒸し焼きした、現地に古くから伝わるワティアという調理法にインスピレーションを得た料理

IWC PILOT. ENGINEERED FOR ORIGINALS.



—— ビッグ・パイロット・ウォッチ 43
Ref. 3293: 機能的なデザイン、視認性に優れた文字盤、人目を引く円錐型のリューズといった特徴で「ビッグ・パイロット・ウォッチ」はアイコン的存在となりました。このたび、直径43mmのモデルが初めて登場し、手首で際立つ存在感はそのままに、かつてなかった快適さを

実現します。IWC自社製キャリバー82100とサファイアガラスの裏蓋を備える「ビッグ・パイロット・ウォッチ 43」は、ストラップ/ブレスレットを素早く交換できるEasX-CHANGE®システムの採用により、汎用性の高いスポーツウォッチとして様々なシーンで活躍します。
IWC. ENGINEERING DREAMS. SINCE 1868.

DOWNLOAD THE NEW IWC APP
FOR VIRTUAL TRY-ON

IWC自社製キャリバー82100・ベラトン自動巻き機構・60時間パワーリザーブ・秒針停止機能付きセンターセコンド・サファイアガラスのシースルー裏蓋・防水性10気圧・直径43mm・ステンレススティール

IWC Schaffhausen, Switzerland · www.iwc.com/ja · Contact info 0120-05-1868

IWC
SCHAFFHAUSEN